

中学校第1学年 道徳学習指導案

日 時 平成23年9月30日(金) 2校時
指導者 教育センター所員 久保 寛美

1 主題名 「時間を守る」 内容項目 4－(1)

2. 資料名 「わずか『2分の遅れ』で…卒業ファイ」 (楽しい道徳の授業 Part 3) 一部改作
福岡教育大学附属小倉中学校研究同人

3. 主題設定の理由

○ ねらいとする価値について

社会には何らかのきまりがあり、そのきまりについて自ら考え、判断し、行動し、その結果に責任をもつことは、社会に生きる一員として求められる態度である。日常生活の中で、「考え、判断し、実行する」ことを繰り返しているが、常に自ら深く考えているとは限らず、甘えが生じたり、周囲の雰囲気によって左右されたりして、都合のよい判断に陥ってしまうことがある。「時間を守る」というルールについても、同様に意識と行動に差が生じてしまうことが多い。

そこで、時間を守ることに深く考えさせる学習活動を設定した。「時間を守る」規則について、自ら判断させることで、行動の善し悪しではなく、その行動の結果についても深く考えさせていきたい。そして、時間を守れるかどうか、自分に対して、また、社会に対して誠実な行動となることを考えさせたい。

○ 生徒の実態について

本学級の生徒は、明るく素直な生徒が多く、班活動を始め、様々な活動の中で、男女の隔たりなく協力し合って取り組んでいる。中学校生活にも慣れ、担任の指示や授業中の教師の指示を理解して、それを行動に移すことができている。

ただ、学校生活に慣れた反面、時間や提出期日を守ろうとする態度が4月当初に比べると少し下降気味である。例えば、掃除や帰りの会の始まりに遅れることで他の友達に迷惑をかけてしまったり、提出期日を守らずに注意を受けたりすることが見られるようになってきた。遅れる理由も、自分の都合や安易な考えが多く、注意だけでは生徒自身の自覚まで育てることができていないのが現状といえる。

この資料を通して、時間を守ることの大切さ、社会の厳しさに気付かせ、今後の生活につなげさせたい。

○ 資料の活用について

本時で扱う「わずか『2分の遅れ』で…卒業ファイ」は、昭和60年に卒業予定の大学生が卒論の提出にわずか2分遅れ、卒業が見送られた、という実話の記事を資料化したもので、実際の教員会議でも2つの意見に分かれており、生徒たちの意見も卒業させるか卒業させないか分けると予想される。班での話し合い活動の中で他者の意見を聞き、更に自分自身の考えを深めながら、時間を守ることの大切さを感じさせていくことができる資料である。難しい選択について、生徒一人一人がじっくり考える時間と互いの意見を確かめ合う時間を確保することで、自己の内面に目を向け、主人公の学生と自分を重ねながら考えさせることができるように展開したい。

○ 指導の重点

指導に当たっては、導入で夏休みの宿題を思い出させ、提出期限についての話題に触れて資料につなげたい。展開から終末にかけては、自分の考えを3段階に分けて深めさせていきたい。1段階目では、前段の資料を読み取り、自分の考えを出し、2段階目では班での話し合いを終えて自分の考えを確認させる。最後に後半部分の結果を読んだ上で終末につなげて、感じたことをまとめさせる。それらの考えの変化にも注目させながら、「時間を守る」ことの大切さを考えさせて、ねらいに迫りたい。また、厳しさを前向きに受け止めた主人公の思いにも触れ、これからの自分の生活につなげさせたい。

4 ねらい

卒業可か不可かを話し合う活動と実際の会議の結果を知ることを通して、「時間を守る」ことの大切さについて考え、これからの生活で実践していこうという態度を育てる。

5 展 開

	生徒の学習活動	主な発問・予想される生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1. 夏休みの宿題において、大変だったことやよくできたことを思い出す。	○夏休みの宿題を思い出してみても、大変だったことやよくできたことはどんなことですか。 ・夏休み中に宿題を終わらせることができなかった。 ・宿題が多かった。 ・きちんと終わらせることができた。	○反省の時間にならないように、できなかったことを否定するのではなく、部活や行事で忙しかったことなどのそれぞれの理由に共感する。
展 開	2. 資料「わずか『2分の遅れ』で…卒業ファイ」の前半を読んで考える。 (1) 教師の範読の後、提示された写真を見ながら、内容を理解する。 (2) ワークシートの1に自分の考えを書く。 (3) 班で意見を出し、話し合う。 (4) 話し合い後の自分の考えをワークシートの2にまとめ、発表する。 (5) 資料の続きを読み、会議の結果を知る。	○あなたは、どちらの意見に賛成ですか。それはなぜですか。 ・卒業できる「たった2分なので、かわいそうと思う」 ・卒業できない「時間を守れなかったことは事実だから受け付けられない」 ○班ごとに意見を出し合って話し合いをしましょう。 ○話し合いを終えて、どちらの意見に賛成ですか。ネームカードを貼りましょう。	○資料を分割して配付する。 ○実際にあった話なので、実物を見せたり、身近な先生の卒論体験談を紹介したりして、関心をもたせる。 ○範読の後、資料の流れを4つの写真で示して状況を補足説明しながら、内容を理解させる。 ○この後、班で話し合いをすることを伝える。 ○出された意見に対して、切り返しの発問をして、それぞれの理由を深めていく。 例「何分までだったらいいの？」 「それまでの努力やまじめさはあまり関係ない？」 ○進行役や意見を出す手順を指示して、スムーズに話し合いが進むようにする。 ○できれば、班の中で卒業「できる」・「できない」のどちらか決定させる。 ○ネームカードを黒板に掲示させ、全体で意見を共有できるようにする。それぞれいくつか、理由について挙手で発表させる。 ○班の話し合いで意見が変わった生徒に挙手をさせ、その理由を発表させる。 ○あえて記述はさせず、終末の感想につなげる。
終 末	3. 自分の生活を振り返り、今後の生活を考える。	○今日の授業を振り返って、どんなことを思いますか。感じたことや考えたことを書きましょう。	○感想を書いた後、教師が実際体験した失敗談を話し、加えて授業で出た意見や話し合い活動を振り返らせて終わる。

6 評価の観点

- ・卒業可か不可かを話し合う活動と実際の会議の結果を知るを通して、「時間を守る」ことの大切さを感じ、これからの生活で実践していこうと主体的に考えることができたか。

「わずか『2分の遅れ』で…」

岡山大学・・・「卒業論文」受け付けず教官会議へ

教員採用試験にも合格していた岡山大学教育学部の男子学生（二十三）が卒業論文提出締め切り時間に二分遅れたため、論文を受け付けてもらえなかった。

同学部では例年一月末が卒論の締め切り。以前から締め切り時間に厳しく、これまでも何人かの学生が卒業延期の目にあっている。

今回の学生は一月三十一日、原稿用紙八十枚の卒論をやっと仕上げ大学に持参した。大学内の研究室で友達に手伝ってもらい、とじ込みをしたが、遅れそうになったため、タイムリミットの午後五時少し前、提出窓口の教務係へ事情の説明に行ったところ、「ともかく現物がなければダメ。」と言われ、あわてて取りに戻ったが、すでに時計の針は五時を二分回っており、頼み込んだが、結局、受け付けてもらえなかったという。

この問題は卒業資格の条件を検討する会議で話し合われたが、不可と判定された。しかし、この学生の担当教官は「まじめな学生、何とか救済の道を」と卒業判定会議である教官会議に再び検討を申し出た・・・。

教官会議の中で、学生を救ってあげたいという教官達は、「本人は一生懸命努力した。ミスとしてはわずかなもので、寛容さも教育に必要なのでは。」「教育の場でこんなに人の一生を左右していいのか。」と処分の変更を求めた。しかし、一方では「二分ならいいが十分ならダメというふうになったら歯止めがきかない。」「努力したのだからということになれば、普通の試験も同じことになる。」「といった反対や「二分ぐらいというが、その重みを知らない人が、人にものを教える教師になるのは困る。」「大学の教育は自分たちで作った規則を守るという約束の上に成り二分の遅れに対する決断、あなたはどうか考える。」

約百人が出席したこの会議、二時間近くにわたって「二分の遅れ」について論議されたが、結局、卒業を認めないことで決着した。秋まで卒業延期、春から教壇に立つ夢もなくなった。

この学生は、小学校の教師を目指し、今年度の岡山県教員採用試験にも合格、採用予定者として名簿に載っていたが、「今春卒業」が条件だったため、このほど辞退した。しかし、教師になる夢は捨てておらず、再チャレンジするという。

『わずか』2分の遅れ』で……』

教員採用試験に合格していた岡山大学教育学部の男子学生(二三)が卒業論文提出締め切り時間に二分遅れたため、論文を受け付けてもらえず、秋まで卒業延期、春から教壇に立つ夢もフイになった。「わずかなミスで人の一生を左右していいのか。教育には寛容さも大切。」との声が上がリ、教官会議で議論されたが、「教育を志す者に甘えは許されない。長い目で見れば彼のためにもなるはず。」との意見が大勢を占めた。

二分の遅れに対するこの代償、あなたはと思う。

岡山大学・・・卒業論文受け付けず

教官会議「甘えは許されない」

同学部では例年一月末が卒論締め切り。以前から締め切り時間に厳しく、これまでも何人かの学生が卒業延期(十月中旬)の目にあっている。

今回の学生は一月三十一日、原稿用紙八十枚の卒論をやつと仕上げ大学に持参した。大学内の研究室で友達に手伝ってもらい、とじ込みをしたが、遅れそうになったため、タイムリミットの午後五時少し前、提出窓口の教務係へ事情の説明に行ったところ、「ともかく現物がなければダメ。」と言われ、あわてて取りに戻ったが、すでに時計の針は五時を二分回っており、頼み込んだが、結局、受け付けてもらえなかったという。しかし、関係者の話では、受け付けは済ませたものの五時を過ぎても窓口の中でとじ込み作業などをしていた学生が五、六人いたという。

この問題は卒業資格の条件を検討する教務委員会で話し合われたが、不可と判定された。しかし、この学生の担当教官は「まじめな学生、何とか救済の道を」と卒業判定会議である教官会議に再び検討を申し出た…。

学生擁護派は、「本人は一生懸命努力した。ミスとしてはわずかなもので、寛容さも教育に必要なのでは。」「教育の場でこんなに人の一生を左右していいのか。」と処分の変更を求めた。しかし、一方では「二分ならいかが十分ならダメという風になったら歯止めがきかない。」「努力したのだからということになれば、普通の試験も同じことになる。」といった反対や「二分ぐらいというが、その重みを知らない人が、人にものを教える教師になるのは困る。」「大学の自治や教育は自分たちで作った規則を守るという約束の上に成り立っている。」との意見が出され対立した。

約百人が出席したこの会議、二時間近くにわたって「二分の遅れ」について論議されたが、結局卒業を認めないことで決着した。また、締め切りも窓口内で作業していた学生がいたという指摘について、大学は「調査した結果、時間前に受け付けたが、とじ方がまずいものなどにやり直しをしてもらっただけ。この学生もとじ込みが済んでいなくても、ともかく時間内に卒論を持ってくればセーフだった。」と説明している。

この学生は、小学校の教師を目指し、今年度の岡山県教員採用試験にも合格、採用予定者として名簿に載っていたが、「今春卒業」が条件のため、このほど辞退。しかし、教師になる夢は捨てておらず、再チャレンジするという。